



安積二小だより

創立150周年 「花と緑と思いやり ひとみ輝く 二小の子」

郡山市立安積第二小学校
学校便り No. 8
令和7年 6月 5日
文責：校長 齋藤和彦

「体験的な学習」のよさ・効果・期待 “てるてるぼうず”に願いを託す子ども

私は、運動会前に教室の窓にならぶ..子ども達の手作り“てるてるぼうず”が好きです。

ロケットが月に初着陸してから半世紀余..今や宇宙旅行チケットが売り出される時代に。



ここまで科学技術が発達した時代にあっても、運動会や体験学習前日になると、子ども達が教室の窓に“てるてるぼうず”を掲げ、願いを託すのは、なぜでしょう？

その効き目は、きっと迷信..と分かってはいても、そこには科学的根拠を超えた..子どもの心・願いがあるからです。(神頼み..てるてる頼み)

～「がんばって練習してきたんだから..」

～「ぜったいに、晴れますように..！」

子どもの成長(学び)には、このような感情や自然や命を介した友だちとのかかわり、地域の方々や切実な問題を介した学び、直接体験を通して肌で味わう感覚や感動が必要なのです。

運動会競技の子ども達のキラキラした表情。やり遂げて日焼けした閉会式の頬をつたう汗。赤白点数発表～あの..はじける喜びやポーズ。

6月..各学年の見学体験学習(校外学習・宿泊学習・修学旅行)が動き出します。子ども達の特別な期待感やわくわく感も学習効果を高めます。

「体験的な学び」が..子どもの未来に！

「百聞は一見に如かず」

この漢詩には、次のような続きがあります。

- ・百見は一考に如かず ・百考は一行に如かず
- ・百行は一果に如かず ・百果は一認に如かず
- ・百認は一利に如かず ・百利は一貢に如かず

聞くより見ること..見るよりも考えること..考えるよりも行動すること..行動して大切なことは成果をだすこと..成果よりも認めてもらえること..認めてもらえるよりも利益になること..どんな利益よりも社会に貢献できることこそが大切なのである。という教え。

□「体験的な学習」に、子ども達の未来の姿を見据えたい。(“見据える”というより、願いにも似た..“未来への期待”かもしれません。)

☆ 震災後復興..コロナ禍の生活を余儀なくされてきた子ども達。体験学習への学年や担任の先生の工夫や配慮の数々には、これまでの学校行事や教育活動の縮小・自粛・延期・中止..の中で、『学ぶはずだった感覚』『味わうはずだった感動』を補うねらいや意図、思いも含んでいるのです。



◆◆ 校長室より ◆◆

げんき君の「ミルキー もてもて事件」

□ ～こんなお話をしました。(6年生に..)

げんき君は、いつもいつも、先生から注意をされる子でした。「また、げんき君でしょう！」って。げんき君は、中学生になり、小学校から大好きだった陸上部に入りました。中学校でもたくさんの陸上部の友だちと練習にはげみました。その日の陸上部練習が終わり、片付けをしているとき、部の女の子が、みんなにミルキー(あめ)を1個ずつ配りました。友だちは、バックやポケットに入れて..。げんき君は、「ありがとう」って、すぐに口の中にはくっ！..。ちょうど先生が来ました。口の中で何かコロコロしているげんき君は、すぐに先生に見つかりました。「口を開けてみなさい」ミルキーが見つかりました。先生は、「持ってきたのは、だれだ！」その場にいた女の子は下を向いて泣きそう。友だちの部員は気まずい雰囲気だったそうです。

げんき君は迷わず「ぼくです。」先生から叱られて帰りました。

仲間の友だちは、「ごめんな。げんきだけのせいになって..。」

女の子は泣きながら、「私がミルキー持ってきたのに..ごめん。先生に本当のこと言ってくる。」げんき君は、「別に、いいよ。」

「小学校のときだって、こんなことよくあったから、だいじょうぶ。」...この事件があってから、げんき君は、ちょっとの間でしたが、もてもて君になったのです。

～げんきからこの話をお風呂で聞いて、私は感心しました。(お父さんだったら「ぼくです」って言えたかな?と)

